

〈スマート・オコメ・チェーンコンソーシアム〉
データのダム化と穀粒判別器のフル活用





＜農業生産法人＞

株式会社 ヤマザキライス
代表取締役 山崎能央

- ・ 22年前に新規就農し現在約100ヘクタールの生産面積
- ・ 徹底的なコスト削減をし、利益率の高いお米の生産を目指す。
- ・ 生産原価1kgあたり99円の実績（全国平均1kg@200円・農水省目標値1kg160円）
- ・ GPSを利用した自動運転の密苗ロボット田植機を導入（補助金なし）
- ・ 補助金に依存しない農業経営
- ・ 水田センサーの共同開発や
農業用アプリの開発も行う。





GPSを利用し効率の高い作業

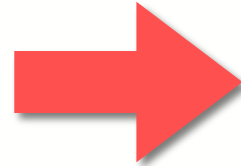


刈取りと同時に
コンバイン収量計でデータ化



玄米生産量約600トン

- ・ あきたこまち
- ・ コシヒカリ
- ・ 彩のきずな
- ・ ほしじるし



全量検査の実施

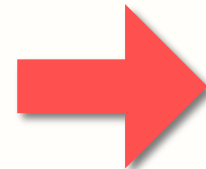
外食業務用米 6割
スーパー等での精米販売 4割



フレコン率90%



30kg検査袋



働き方改革

廃止



新規格20kg検査袋

(皆掛重量廃止)

— SDGs な取り組み —



排出モミガラ of 全量堆肥化

プラスチック被覆肥料使用の削減

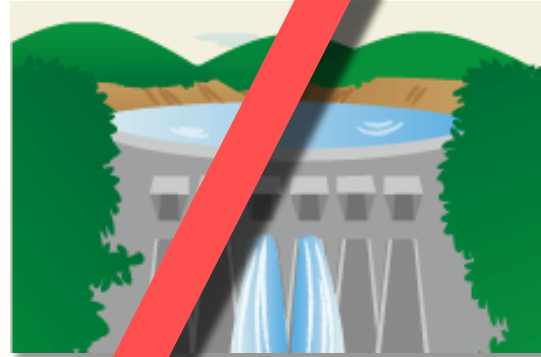
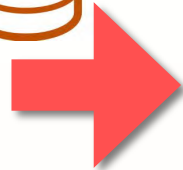


データのダム化と穀粒判別器のフル活用

お米の生産から消費までのデータ連携の問題点

農産物検査によるデータのダム化

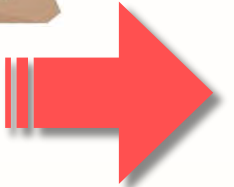




STOP !



STOP !



包装後の新しいデータの流れ